

# 補助講師のための手引書

## 1. お願い

「補助講師」と聞くと難しそうに感じるかもしれませんが、身構える必要はありません。上級生が下級生に、兄が弟に勉強を教えるような感覚で、スクラッチを教えてくれることを期待しています。「どう教えたらいいか分からない」ということがあれば、一緒に考えて対応していきましょう。

## 2. 補助講師の仕事

① 授業開始前	前回の授業で取り組んだ内容を確認しておく 参考：当教室ホームページ「受講中の方へ」⇒「授業風景」
② 授業中	生徒にスクラッチを教える 参考：次章「生徒との接し方（基本方針）」
③ 授業後にすること	生徒の授業中の様子をメイン講師にメール連絡する ※原則、当日中、基本的には1人の生徒

## 3. 生徒との接し方（基本方針）

基本的には、下表を参考に生徒と接してもらえたらと思います。ただし、これはあくまで方針です。自分の性格や生徒との相性に合わせて、やりやすい方法を見つけてください。

場面	ポイント	声掛けの例
授業中のコミュニケーション	生徒が何をしているか把握する	「何を作っているの？」 「今作っているところまでで遊ばせてもらっていい？」
	悩んでいるかどうか確認する	「順調？」 「困っていることはない？」
悩んでいるとき	解決策を教えて欲しいかどうか確認する	「どうするか教えようか？」 「自分でできそう？」
解決策を教えるとき	(できるだけ) アドバイスは少しずつ	「メッセージを使う必要があると思うよ」 「ここにバグがありそう」
	本人では解決が難しいと感じた時	似たようなプログラムを作って 「こうやって作るといいよ」と答えを見せる 「先生がプログラミングしてもいい？」と確認してから、生徒の作品を直接修正する

#### 4. 禁止事項

次の行為は、補助講師としてふさわしくないと考えています。補助講師をしているときは、控えるようにお願いします。

- ① 「スキルアップ」の時間に、教科書の問題と異なるものを作ること  
⇒ 作品をアレンジしたい場合は、「作品づくり」の時間を使うように促してください
- ② 生徒の作品と関係ない、自分の作品を紹介すること  
⇒ 生徒の作品作りに必要だと考えてのことであれば問題ありません
- ③ 自分の作品を作ること  
⇒ 生徒の作品を見て回ってください。よい指摘は優れた観察力から生まれると思います
- ④ 生徒の作品を許可なく操作すること  
⇒ まずは、口頭での説明や黒板を使って説明することを検討してください  
(人に説明する力が伸びます)  
上記が難しい場合、「代わりに操作してもいい？」など許可を得てから、  
生徒の作品を操作することができます

以上です。難しいと感じたらいつでもご相談ください。どうぞよろしく申し上げます。